

「ごあいさつ」

IBM Human Ability & Accessibility Center
World Wide Director Frances West

フランシス／(日本語通訳)皆さん、こんにちは。

フランシス・ウェストです。

今しがた、齊藤からご紹介がありましたように、私は IBM ヒューマン・アビリティ・アンド・アクセシビリティ・センターのワールドワイド・ディレクターを務めている、フランシス・ウェストと申します。

本日の本フォーラムに皆さん、ご来場、ご出席を賜りまして、本当にありがとうございます。

日本におけるアクセシビリティ・センターは私どもが有するアクセシビリティ・センターの中でも、もっとも歴史が古いものでございます。

世界には 7 つのアクセシビリティ・センターがありますが、ここ最も歴史の古い日本におけるアクセシビリティ・センターで、多くの技術革新、そしてベスト・プラクティスが生まれていて、それらを他のアクセシビリティ・センターにてこ入れをすることが可能になっています。

この分野におきまして、私ども IBM におけるビジョンについて、この場をお借りして皆さんと共有させていただく機会に恵まれました。

アクセシビリティ・センターのミッションとしては、世に誕生する新しいテクノロジーにおいて、アクセシビリティが組み込まれることを確実にすることというミッションを抱えています。

そして、教育というのは、アクセシビリティが伝達され、そして、普及されるための、まさしく基盤となる、というように考えています。

日本では齊藤が指揮を執っていますが、同様に、ワールドワイドベースでも、多くの大学との連携を IBM ではとっています。

そして、さまざまな障がいを持っていらっしゃる方々のために、そういう取り組みを通じて新しいテクノロジーの開拓・模索をしています。

これまでの歴史を振り返りますと、主に、視覚障害者、聴覚障害学生といったところに注力してきましたが、認知障害、学習障害というものの重要性も、今日高まっております。

米国においては、戦地に赴き、母国に戻ってきた兵士たちの多くに、認知障害が見ら

れます。

ですので、日本における認知障害及び、学習障害に関連した研究やプロジェクトが、そういったところでも活用できるのではないかと、学ぶものがあるのではないかと、注目しています。

最後になりますが、日本の大学機関、そして研究機関等が今後注目していただければと、私が願っている新しい技術分野があります。

次世代を担う若い学生、若い人たちにとりまして、2 つの重要な技術分野になりうるものがあります。

それが 3D インターネットと、ソーシャル・コラボレーションです。

元々は、3D のインターネットというのは、ゲームのプラットフォームとしてスタートしたのですが、工学、化学、生物学といった教育の場において、活用の余地が大いにあります。

また、ソーシャル・コラボレーションにおいては、先生、生徒、教授、そしてアドバイザーという人たち、様々な人たちの間でのグローバル・キャンパスにおける環境で、とても重要になってまいります。

ですので、これまでも先駆者でいらした日本の大学機関、研究機関におかれましては、今後も、こういう分野でイノベーションを誕生させるべく、是非今後、そういうところも注目していただき、機会がありましたら、IBM との協働の可能性を模索していただければと思います。

皆さん、ご清聴ありがとうございました。

来年、あるいは 2 年以内に、皆さんにこのような場で、別の機会にお会いできればと思います。

本日はありがとうございました。